

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 おひさま			
○保護者評価実施期間	2025年3月8日		～	2025年3月29日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	2025年3月8日		～	2025年3月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個別の療育を基本として一人ひとりの特性に合わせた計画を立案し、課題を設けることができる。	・利用者の特性を把握し、一人ひとりの特性に合った課題を選定し、支援を行っている。	・利用者の特性を一層把握するために、アセスメントを丁寧に行い、利用者が意欲的に取り組み、達成感を味わう支援を行う。
2	・親子で通所することで保護者に療育の様子を参観してもらったり、課題のねらいや取り組み方、様子等をていねいに伝えたりして、次の課題や変容等を共有することができる。	・療育の終わりに、一時間の療育の目標、課題の選定、取り組みの様子等を保護者に話し、支援の効果を伝えている。	・面談等の機会を設けて、保護者とのコミュニケーションを密にし、利用者の特性をより把握して療育を進められるようにする。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・他児との関わる機会が少ない。	・指導員が利用者に関わる一対一の個別の療育(1時間)が基本となっているため、他児と関わる機会を設けることが難しいため。	・同じ時間帯の利用者が挨拶を交わしたり、一定の時間や場を共有したりすることで他と関わりを持ったり、より深めたりすることができる。
2	・事業所の取り組み(支援プログラムや家族支援＝ペアレント・トレーニング等)をご家族に周知していくこと。	・事業所の取組を職員間で十分共有した上で、周知していくこと。	・「事業所だより」や療育後の保護者との話し合いを活用して、情報を提供していく。
3	・移行支援を含めて他機関、他事業所との情報の共有。	・非常勤勤務者が多く、勤務時間外の勤務を設けることが難しい。	・訪問だけでなく、電話やオンライン等の通信手段も活用していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 児童発達支援 おひさま

公表日 年月日 2025年 4月 1日

利用児童数 22名

回収数 11名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	90%	10%			・個別のスペースがあるのがよい	・個別の療育の成果がより一層上がるように、環境面での配慮の工夫に努めていきたい。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	100%				・一対一の対応がよい。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	90%	10%			・きれいに整理・整頓されていると思う。	
適切な 支援の 提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	90%	10%				・今後も研修の機会を重ねて、個の特性に合った支援の工夫に努めたい。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	90%	10%				
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	90%	10%			・言語について成長が見られているので続けてほしい。	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	90%	10%				・10月以降の改定した個別支援計画については、必要な項目を選択して具体的な支援内容を設けている。
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	100%					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%				・運動をたまに取り入れてもらったり、工夫をしたりしている。	
保護者 への 説明 等	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	30%	20%	40%	10%	・たまにほかの友達と遊ぶことがある。 ・特に必要がないので今まで通りでよい。	・個別の療育が基本であるため、他の機関との交流が難しい。今後、可能性について検討していきたい。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	100%					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	70%	20%		10%	・一度研修会をやって、とても勉強になった。	・研修会のテーマに関わるアンケートを取り、保護者の意向を踏まえた学びの会を企画したい。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100%				・よくできていることやよいところ、難しいところなど伝えてもらってありがたい。	・療育終了後の療育の様子（課題の設定、関わる様子、課題等）を伝えることは今後も重点としたい。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	100%					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	30%	20%	30%		・他の利用者のことは分からない	・試験的に一部を対象にイベントを開催した（音楽会）。こうした機会を設ける企画を検討し、参加を呼びかけていきたい。	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	90%	10%				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	100%					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	90%			10%		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	90%	10%			・避難訓練は毎回しっかりと説明があり、できている。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	80%	10%		10%	・分からない。	・年3回、個別の療育の時間に設けている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	90%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	80%			20%	・事件、事故はないので分からない。	・事故発生時の対応については今後も職員への周知を図っていく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	90%	10%			・いつも楽しく通っている。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	90%	10%			・毎日楽しみにしているのでありがたい。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援 おひさま		公表日 2025年 4月 1日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		・個別の療育に合った各ブースを設けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		・一对一の個別の療育に合った職員の配置を基準にしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	67%	17%	・各ブースでの療育を行って、他からの視覚刺激に影響されな環境設定に配慮している。	・エレベーター前の数段の階段は、建物の構造上改善が難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		・当番を決めて、掃除を実施している。 ・簡単な身体活動ができるフリースペースを設置している。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	83%		・療育は、基本的に個別の部屋（環境）で行うことになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	67%		・職員会議や打ち合わせ等で意見交換を行って、業務改善を図っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	83%		・職員の打合せや職員会議を定期的に設けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	17%	33%		・外部評価を実施するできるよう具体策を検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		・主に職員会議の中で確保している。	・財政的な課題があって不十分であったため、次年度は開催に向けて工夫したい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	83%		・職員鍵で検討後、ホームページで公開した。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	83%		・「保護者アンケート」「面談シート」を活用し、より一層「利用者と保護者の願い」にそった計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	67%		・ケース会議（モニタリング会議、支援計画案会議）は、児発管を含めて原則3人以上で行っている。	・現状を基本線として維持していきたい。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	83%			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	67%		・オリジナルの「保護者アンケート」「面談シート」で確認している。	・フォーマルなアセスメントについては、実施に向けて検討したい。

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		・研修会を開催し、各項目の設定について周知してきた。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	83%	17%	・個別の療育であるため、チームで活動プログラムを立案することは少ない。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		・個別の療育であるため、個の特性に合ったプログラムを作成することができる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	67%			・療育の時間帯が同じ利用者同士が、他との関わりが持てる機会を模索していきたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	83%		・個別の療育のため、療育前後の細かな打合せを必要としないが、振り返りやまとめ、気づいた点等の情報交換は当日あるいは別の日に行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか。	17%	50%		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		・支援に関わる内容は、療育後に毎回記録をしている。	・検証と改善につなげる方策を検討したい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		・6カ月毎に実施して、利用者や保護者の願いを反映させている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	83%			・個々の特性に合わせて支援を行っているが、今後一層の充実を図る必要がある。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	83%		・課題に関しては、自己選択・自己決定ができるよう配慮している。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	50%	33%		・会議の開催が実施されていないため、参画できていない。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	17%	50%	・医療、福祉等の関係機関との連携が必要な場合は、現状では見受けられない。	・支援を行う体制整備はできていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	33%	33%		・保護者の送迎が基本となっているため、この項目での情報共有は必要としない。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	33%	33%		・保護者の意向があり、財政状況が好転した段階になって積極的に関わっていきたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		33%		・これまで前例がないため提供の機会がなかったが、今後機会があれば取り組んでいきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	67%	17%		・機会があれば、設けていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		50%		・個別の療育のため、時間の設定が難しい現状である。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	33%	17%	・厚木市通所事業所連絡会に参加して、他事業所と情報交換を行っている。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		・療育終了後には毎回保護者との話し合いの時間を設けている。	・重要と考えるため、より一層深めていきたい。	

保護者への説明等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	50%	33%		・子育てと親育てを合わせた研修会の実施に向けて検討したい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		・契約時に実施して、内容の説明と理解に努めている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	83%			・6カ月毎のモニタリング時や日々の療育後の話し合いの中で充実させていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	83%		・6カ月毎に実施している。	・今後も継続する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	83%		・療育終了後の話し合い等でやっている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	17%	50%	・保護者の家庭の事情により、一堂に会する機会を設けることが難しい。	・実施できる内容を模索する。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	83%		・事業所内に手順を掲示し、マニュアルを周知している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		・通信は毎月発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		・電子記憶媒体は所外に持ち出さない、個人ファイルは収蔵庫は施錠する、作品展示は利用者や保護者の同意を得るなどの配慮を行っている。	・今後も継続する。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	67%		・外国籍利用者には、翻訳アプリで対応している。	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		50%	・事業所が商店街に立地するため、現状では難しい。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	67%	13%	・各マニュアルは、事業所内に掲示している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	83%		・防災訓練は、対象者を変えて年3回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	50%	13%	・「保護者アンケート」に項目を設け、対象は個別支援計画への記述に努めている。	・これからも継続する。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	33%	33%		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	83%		・常日頃事業所内を見回り、安全管理上の改善に努めている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	67%			・「通信」等で周知する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	83%		・「報告ファイル」を作成、回覧して職員間での共有を図っている。	・今後も継続する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	67%		・年に一回は研修会を開いて対応している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	33%	33%	・法人内に委員会を組織して対応しているが、対象となるケースがない。		